A・Cグループ

課題改善に関する実践例

～～（主体的対話的学習を可能にするための基礎力養成）～～

上野原高等学校　国語科

（１）課題の内容

本校は総合学科であるため、総合学科発表会に向けての調べ学習や、図書館との連携活動、発表やプレゼンテーションなどの活動が盛んである。そのため、生徒の対話的学習への取り組みの姿勢は積極的である。しかし、どの年次の指導者も、生徒に意欲はあっても、表現するための語彙力が不足していることを日々の指導において痛感している。

以上の状況から、対話的な学習を更に推進しつつ、生徒の語彙力を中心とした基礎力をいかに高めていくかを考え、生徒がより主体的に学習に取り組めるよう工夫をしていくことを課題とした。

（２）課題改善に向けた具体的な取組

①SHRテストにおける取組

予習プリントを配布し、全員に提出させ、不合格者には課題を課す。その際に、生徒が無理なく取り組めるよう、極度に語彙力や漢字の力が無い生徒については、放課後残し、教員がついて指導をした。その際丁寧に文字を書く姿勢を身につけさせるため、根気強く指導をした。

②授業内における語彙力の養成

副教材として『語彙ノート』を持たせ、授業の最初の５分を使って学習した。定期試験の範囲に入れる、小テストを行うなど、いかに定着をさせるかを考えつつ指導した。

③表現の授業等において、各種作文コンクールや俳句コンクールに応募し、対外的に発表する機会を作り、生徒の意欲喚起に努めた。

（３）取組の成果とその要因

漢字を丁寧に書かせたり、提出物をしっかり出させたりすることで、丁寧に書くようになり、書くことへの抵抗感が減った。ポスターセッションやパワーポイントのケアレスミスも減った。

（４）取組の中で感じられた課題と考えられる要因

高校入学以前の漢字の力や言葉の力が非常に低い生徒が多い。日々地道な指導をしていくよりほかないと感じる。

（５）（４）で感じられた課題に向けての改善策（案）

言葉への興味を持たせるという意味でも、単なる漢字練習だけではなく、部首による意味の見分けなどを教えていく。

古典指導を通して、自国の文化や言葉を大切にする気持ちを培い、言葉を疎かにしない指導をする。